Sound&Vision technologies

Care Cube

従業員の「気づき」を促し、早期発見・早期対応の実現へ

ダイトーケミックス株式会社のCare Cube運用事例

電子材料やイメージング材料、医薬中間体などの製造を手がけるダイトーケミックス株式会社。同社では、年1回の法定ストレスチェックを実施していますが、自己申告制の限界や結果が出るまでのタイムラグなど、従来の手法では見えない課題がありました。そこで大阪府スマートシティ戦略部の大阪スマートヘルスプロジェクトを通じてCare Cubeと出会い、2ヶ月間のトライアルを実施。「本人の気づき」を重視した運用で、リアルタイムな早期発見・早期対応の手応えを掴みました。ダイトーケミックス技術開発センター開発管理グループの皆様に、運用の経緯と成果を伺いました。

自己申告では見えない「本当のしんどさ」

ダイトーケミックス 大阪事業所

ダイトーケミックスは全社で約270名、大阪事業所では約110名の従業員が働いています。本社部門約35名と研究開発部門約75名が同じ敷地内にあり、基本的に日勤のみ、土日休みという勤務体制です。同社では年1回の法定ストレスチェックと集団分析を実施していましたが、以前から限界を感じていました。ストレスチェックには大きく三つの課題がありました。一つ目は、自己申告制であるがゆえに本人の主観が入ってしまうこと。ある社員は、自分がしんどいと感じているのに結果が出ないことを不思議に思い、試しに両極端な回答をしたところ、初めて高ストレス者として判定されたといいます。正直に答えているかどうかもわからず、本人が感じている実態と結果が一致しないケースが少なくありませんでした。

二つ目は、結果が返ってくるまでに1〜2ヶ月かかること。記入時の状態を1〜2ヶ月後に確認しても、本人の記憶も曖昧になり、タイムリーな対応ができません。常に後追いになってしまう構造に、産業看護師（以下、看護師）は歯がゆさを感じていました。三つ目は、本人が自覚していないケースへの対応の難しさです。同社は男女比が9対1で 男性が多い職場ですが、社員からは「こんなにしんどいのに、ストレスチェックでは結果が返ってこない」という声が上がっていました。こうした状況の中、ダイトーケミックスでは健康経営の取り組みとして、メンタルヘルスに関して何か社内でできることはないかと模索していました。そこに転機が訪れます。

「本人の気づき」を促すツール

2025年2月、看護師は大阪府のスマートヘルストライアル事業説明会に参加しました。 そこで求めていたのは、個人にアプローチでき、個人に気づいてもらえ、結果がすぐにフィードバックできるツールでした。特に「今」の状態を知れることを重視していました。説明会では複数のメンタルヘルスツールが紹介されました。人の性格を読み解いて適材適所の配置に活かせる製品もあり、人事部門としては魅力的でした。しかし最終的にCare Cubeを選んだ最大の理由は、従業員自身の「気づき」を促せる点にありました。

看護師は日頃の面談を通じて、ある確信を持っていました。何をするにも押し付けではなく、本人が自分の現状を知り、この先どうありたいかを考えることが重要だということです。今の状況がわからないままでは、しんどいのが当たり前になってしまいます。それが当たり前ではないと気づいてもらうためには、本人が自分の状態にリアルタイムで気づけるツールが必要でした。Care Cubeの特徴である声帯の震え（不随意筋）の分析も、選定の決め手となりました。意識的なコントロールが難しい声帯の不随意反応に着目し、声の周波数の変動パターンからメンタルの状態を客観的に数値化する仕組みです。また、本人が参加しないと結果が出ない「参加型」である点も、主体性を重視する同社の方針に合致していました。

アットホームな雰囲気で広がった参加の輪

ダイトーケミックス 大阪事業所

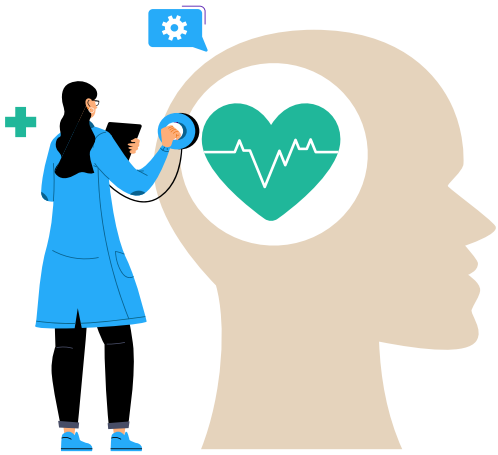
2025年6月より、同社は2ヶ月間のトライアルを開始しました。対象は健康経営推進委員会のメンバーと希望者で、社員入口のタイムカード近くにCare Cube端末2台を設置し、出勤時と退勤時の1日2回、3秒間の発話で測定する運用としました。導入説明会では、3秒の声でメンタル状態がわかるという仕組みに懐疑的な反応もありました。しかし興味深いことに、男性よりも女性社員の方が強い関心を示しました。女性社員たちは、ストレスチェックでは結果が出なかった自分たちの「本当のしんどさ」を、Care Cubeなら見つけてくれるのではないかという期待を抱いたのです。最初の参加者は10名弱でしたが、看護師らの声かけもあり、最終的には30名強まで増えました。ただし、声かけには細心の注意を払いました。特定の人だけが選ばれたという印象を与えないよう、各グループで参加している人から他のメンバーに自然に誘ってもらう形を取りました。小規模な会社ならではのアットホームな雰囲気を活かし、トライアルなので気軽に試してみてはどうかと促したことで参加の輪が広がっていきました。

運用面では、2台の端末を用意したことが功を奏しました。万が一の不調に備えたバックアップとして有効だったのです。また、ボタン式と自動顔認識式の2タイプを試した結果、出勤ラッシュの忙しい朝はボタン式の方が便利だという気づきもありました。さらに三脚で高さを調整できるようにしたことで、体格の差に関わらず誰もが無理なく利用できる環境を整えました。プライバシー保護については、ストレスチェックと同じ扱いとし、結果は看護師のみが閲覧できる仕組みとしました。人事評価とは完全に切り離し、結果の秘匿性を明確に伝えました。

その日のうちに気づき、声をかける

トライアル期間中、看護師は毎日、生データを確認していました。
Care Cubeは音声で「絶好調ですね」「なかなか元気ですね」「マイペースでいきましょう」の3段階を返しますが、管理画面では100段階の詳細な数値が記録されます。
仕組みとしては3回連続で赤（不調）が出た場合にアラームが届く設定でしたが、看護師は1回でも赤がついた従業員には、その日のうちに声をかけるようにしていました。理由は深く聞かず、何か気になることがあったか軽く確認するだけです。それでも、ほとんどの従業員が心当たりを話してくれまた。

印象的だったのは、ある従業員の変化です。赤が出た際に声をかけたところ、その従業員は「こんな声で本当にわかるんですね」と驚き、以降は毎日きちんと測定するようになりました。疑っていたことを素直に明かし、自分の状態を見ていきたいと前向きな姿勢をトライアル最終日まで見せてくれたのです。もし1ヶ月後に過去の異常値を指摘しても、本人はおそらく思い出せません。その日のうちに知れることで、タイムリーな声かけと早期対応が可能になったのです。
また、従業員が個人で自分のデータを確認できる仕組みも重要です。朝出社時に自分の状態を把握し、今日は少し無理をしないでおこうと自己判断できる余地が生まれるからです。



同社は化学品製造業として、化学物質や有機溶剤の取り扱いには積極的に対応してきました。ケアレスミスの積み重ね、集中力の低下、思い込みによるミス——こうした事象とメンタルヘルスの関連性を、今回のトライアルを通じて改めて認識しました。様々な危険物質を扱う現場では、一つのミスが大きな事故につながる可能性があります。不安や心配、集中できない状態から生まれるミスを未然に防ぐためにも、メンタルヘルスの管理は安全管理と密接に関わっているのです。

勤怠連携とデータ活用の可能性

トライアル期間中はサウンド＆ヴィジョンテクノロジーズの担当者と密にやりとりを重ねながら、その効果を検証。これまで把握できなかった社員のメンタルヘルスが把握できた。

2ヶ月間のトライアルを経て、ダイトーケミックスの担当者らは今後の展開に手応えを感じています。もし本格導入する場合は、出退勤管理システムと連携させたいと考えています。朝と夜の変化を追うことで、仕事量や勤務時間との関連性が見えてくる可能性があるためです。毎日しんどい状態が続くのか、特定の曜日にストレスが高まるのか、担当業務との相関はあるのか——こうした分析が可能になれば、より精緻な職場環境管理につながります。

また、同社が健康経営施策として力を入れている運動・睡眠・食事との連携も視野に入れています。体調不良や食事の偏りなど、様々な要因を探る手がかりとして活用できる可能性があります。

今回のトライアルは大阪事業所の一部での実施でしたが、メンタルヘルスは同社の健康経営施策における重要課題に位置づけられています。本格導入となれば全社展開が対象になると考えており、社内の理解は得られると見ています。

結果をどう活かすかが問われる

メンタルヘルス管理に課題を感じている製造業の方々へのアドバイスとして、ダイトーケミックスの担当課長は次のように語りました。
「どのようなツールでも同じですが、導入することで満足するのではなく、結果をどう使い、どうフィードバックするかが重要です。何かを導入したから対応していますというアリバイ作りではなく、結果を見てどう行動するかが問われます。そのためには、人事考課につながらず、従業員に不利益をもたらさない立場の人が、きちんと結果を見て対応していける体制が必要です」。

また、客観的なデータを取ることの重要性も強調します。「特に危険な作業に従事する従業員にとっては、客観的にデータを継続的に取得していくことが、安全管理の観点からも大切だと考えています」（担当課長）

ダイトーケミックスのトライアルは、従業員本人の「気づき」を促し、早期発見・早期対応を実現する可能性を示しました。ストレスチェックだけでは見えなかった「本当のしんどさ」に、リアルタイムで気づき、寄り添える——そんな新しいメンタルヘルス管理の形が、製造業の現場で芽生えつつあります。

株式会社サウンド＆ヴィジョンテクノロジーズ
東京都港区南青山3-1-36青山丸竹ビル6階

Website：https://sandvtechnologies.com/
問合せ：info@sandvtechnologies.com